

「富良野市立地適正化計画」策定にあたっての アンケート調査へのご協力をお願い

市民の皆さまにおかれましては、日ごろから市政にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本市では、社会情勢の変化や関連法の改正等を踏まえ、令和3年3月に第3次都市計画マスタープランを改定しました。本マスタープランでは将来都市像である「安心・安全で多様な世代・世帯が住み続けられる快適な都市空間を形成する地球にやさしいまち」の実現を目指しており、人口減少下においても安心して快適な暮らしを持続できるよう各種施策を進めていくため、このたび『富良野市立地適正計画』を策定いたします。

この調査は、計画の策定にあたり、対象区域にお住まいの方を対象に、本市のまちづくりに関して皆さまのご意見を伺い、基礎的な資料とすることを目的としてアンケート調査を実施させていただきます。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年7月 富良野市長 北 猛俊

※ 立地適正化計画とは、持続可能な都市構造への再構築を目指し、人口減少社会に対応したコンパクトシティを実現するため、市町村が必要に応じて策定する計画です。持続可能なまちづくりに向け、人口密度を維持し、居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等のさまざまな都市機能を適正配置するものです。

ご記入、ご返送に際してのお願い

- アンケートの回答は、封筒宛名の**ご本人**が記入してください。
(ご本人の回答が困難な場合は、身近な方が代筆されて構いません)
- 回答は当てはまる番号を○で囲むか、又は直接枠内へご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、そのまま同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、**8月4日(水)**までに郵便ポストへ投函してください。
- 個人情報保護のため、返信にあたって封筒裏面への記名は不要です。
- この調査に関して、ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。



【 お問合せ先 】

富良野市 建設水道部 都市建築課 担当 渡邊

TEL : 0167-39-2316 FAX : 0167-39-2332

電子メール : kenchiku-ka@city.furano.hokkaido.jp

アンケート調査票

富良野市のまちづくりに関して、市民のみなさまのご意見をお聞きするアンケートです。

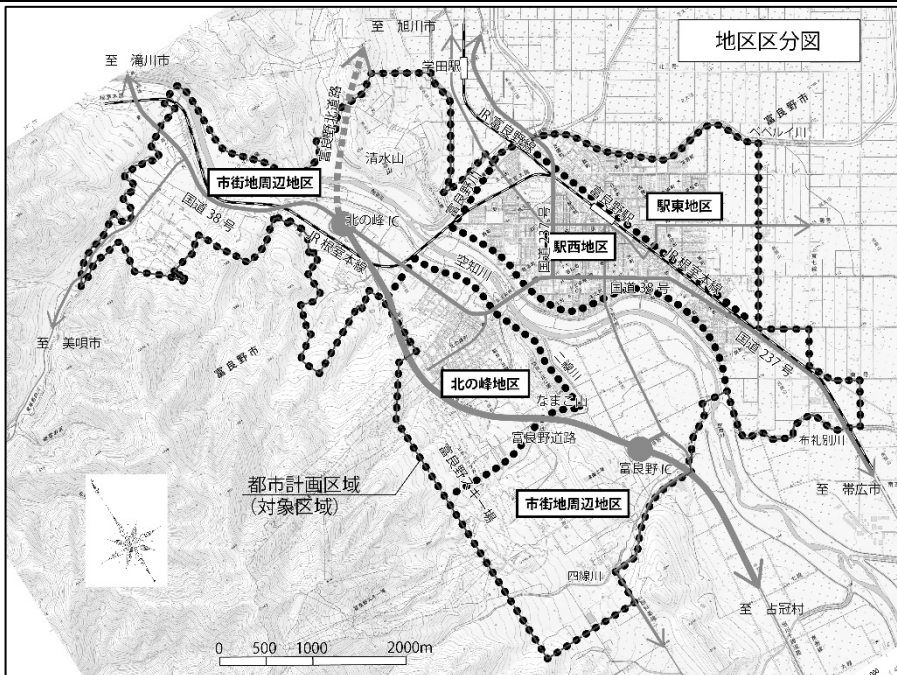
(1) はじめに、あなたご自身のことについてお伺いします。

(各項目のあてはまる番号1つに○を付けてください)

Q1. 性別	1. 男性	2. 女性
--------	-------	-------

Q2. 年齢	1. 29歳以下	2. 30～39歳	3. 40～49歳
	4. 50～59歳	5. 60～69歳	6. 70歳以上

Q3. 居住地区 (町名を○で囲んでください)	1. 駅西地区 ----- 朝日町 / 本町 / 若松町 / 日の出町 / 幸町 / 末広町 / 栄町 / 若葉町 緑町 / 扇町 / 南町 / 弥生町 / 桂木町 / 新富町 / 西町 / 北斗町 西扇山 / 南扇山
	2. 駅東地区 ----- 春日町 / 東町 / 花園町 / 錦町 / 新光町 / 住吉町 / 瑞穂町 / 東麻町 西麻町 / 南麻町 / 北麻町 / 東雲町 / 南大沼
	3. 北の峰地区 ----- 北の峰町 / 学田三区 (JR 根室本線を境に南側) / 下御料
	4. 市街地周辺地区 ----- 西学田二区 / 学田三区 (JR 根室本線を境に北側) / 清水山 / 島ノ下 中御料 / 下五区



Q 4. 富良野市での 居住年数（※）	1. 5年未満	2. 5年以上～15年未満
	3. 15年～25年未満	4. 25年以上

※途中で富良野市を離れた方は、その年数分を差し引いてください。

Q 5. お住いの住宅	1. 持ち家（戸建て住宅）	2. 持ち家（集合住宅）
	3. 賃貸（戸建て住宅）	4. 賃貸（集合住宅）

（2）普段の「暮らし」についてお伺いします。

普段の「暮らし」について、Q6～Q13をお答えください。

Q 6. 自家用車（同乗含む）の利用頻度（1つに○）

1. ほぼ毎日	2. 週3, 4回	3. 週1, 2回	4. 月1, 2回	5. 年に数回	6. 利用しない
---------	-----------	-----------	-----------	---------	----------

Q 7. 鉄道の利用頻度（1つに○）

1. ほぼ毎日	2. 週3, 4回	3. 週1, 2回	4. 月1, 2回	5. 年に数回	6. 利用しない
---------	-----------	-----------	-----------	---------	----------

Q 8. バスの利用頻度（1つに○）

1. ほぼ毎日	2. 週3, 4回	3. 週1, 2回	4. 月1, 2回	5. 年に数回	6. 利用しない
---------	-----------	-----------	-----------	---------	----------

Q 9. 各施設の利用頻度（それぞれ1つに○）

	ほぼ毎日	週3, 4回	週1, 2回	月1, 2回	年に数回	利用 しない
1. 日常的な買い物	1	2	3	4	5	6
2. 医療施設	1	2	3	4	5	6
3. 高齢者支援施設	1	2	3	4	5	6
4. 子育て支援施設	1	2	3	4	5	6
5. 文化・スポーツ施設	1	2	3	4	5	6

※日常的な買い物：スーパー、ドラッグストア、商店街など（コンビニエンスストアは除く）

医療施設：総合病院、専門病院（歯科は除く）

高齢者支援施設：デイサービスやリハビリテーション等の通所系施設（居住系は除く）

子育て支援施設：子育て支援センター（保育所は除く）

文化・スポーツ施設：文化会館、図書館、ふれあいセンター、中心市街地活性化センター（ふらっと）

Q10. お住いの地区、または自宅周辺の便利さについてお答えください。

(それぞれ1つに○)

設問項目	便利さ判定	現在の住みやすさ				
		大変便利	便利 おおむね	どちらでもない	あまり便利ではない	大変不便
1. 通勤・通学のしやすさ		1	2	3	4	5
2. 通院のしやすさ		1	2	3	4	5
3. 日常の買物のしやすさ		1	2	3	4	5
4. 公園や広場の利用しやすさ		1	2	3	4	5
5. 会館やコミュニティ施設の利用しやすさ		1	2	3	4	5
6. 高齢者・子育て支援施設の利用しやすさ		1	2	3	4	5
7. 公共交通の使いやすさ		1	2	3	4	5

Q11. どのくらいの距離であれば目的地まで歩いて行こうと思いますか。(1つに○)

(参考：富良野駅からフラノマルシェまでが約600mです。)

1. 100mも歩けない	2. 100mくらいまで(1~2分程度)
3. 300mくらいまで(5分程度)	4. 600mくらいまで(10分程度)
5. 1kmくらいまで(15分程度)	6. 2kmくらいまで(30分程度)
7. 2kmより歩ける	8. その他()

Q12. 現在お住いの地区に住み続けたいですか。(1つに○)

1. 現在の地区に住み続けたい
2. 市内の他の地区に今後転居するかもしれない
3. 市外に今後転出するかもしれない
4. その他()

Q13. 上記Q12で「2」又は「3」と回答した方にお聞きします。

もし市内での転居を考えるとしたら、どの様な場所が良いですか。(1つに○)

1. 各種施設が立地する便利な市街地の中心部(具体的に)町)
2. 市街地の中心部ではない住宅地(具体的に)町)
3. 市街地の外縁部に近い閑静な住宅地(具体的に)町)
4. 多少の不便さはあるが、閑静な郊外の場所(具体的に)町)

(3) 今後の「まちづくり」についてお伺いします。

今後の「まちづくり」について、Q14～Q19をお答えください。

Q14. お住いの地区、または自宅周辺に今後も住み続けるために各施設の必要性をお答えください。(それぞれ1つに○)

設問項目	必要性の判定	各施設の必要性				
		絶対必要	できるだけ必要	市内にあればよい	支障ない	なくても必要ない
1. 幼稚園・小中学校・高校などの教育施設		1	2	3	4	5
2. 高齢者・子育てなどの福祉施設		1	2	3	4	5
3. 会館やコミュニティセンター等の集会施設		1	2	3	4	5
4. 公園や広場、緑豊かな緑地など		1	2	3	4	5
5. 病院や診療所などの医療施設		1	2	3	4	5
6. 銀行や郵便局などの金融施設		1	2	3	4	5
7. コンビニ・日用品などの中小規模の商業施設		1	2	3	4	5
8. スーパーやショッピングセンターなどの大型商業施設		1	2	3	4	5
9. 美容院・美容院や飲食店などのサービス施設		1	2	3	4	5
10. 身近なバス停		1	2	3	4	5
11. 災害時の避難所・避難場所		1	2	3	4	5

Q15. 今後の人口減少や高齢化を想定※した場合、これからの「市街地のあり方」としてあなたの考えに最も近いものをお答えください。(1つに○)

1. 歩いて暮らせる生活しやすい市街地を目指し、地域の状況に合わせたコンパクトなまち
2. 一人当たりの費用負担が増加しても現在の市街地規模を維持し、人口減少により発生した空き家・空き地を有効活用できるまち
3. 市街地の規模や構造にこだわらず、集客性の高い施設や定住促進のための新たな住宅地を積極的に整備していくまち
4. その他 ()

※ 富良野市では、令和22年までに6,000人近くの人口減少が予測されており、このまま進むと財政的な負担の増大により、公共サービスが維持できなくなるとともに、市街地の空洞化が深刻となり、各種の民間サービスが低下(縮小)する状況も懸念されています。

Q16. 安全で利便性の高いコンパクトな市街地を目指していくなかで、もし市内での転居を考えるとしたら、どのような支援があると良いですか。(2つまで○)

1. 住宅購入費に対する支援
2. リフォームや増改築のための費用に対する支援
3. 賃貸住宅の家賃等に対する支援
4. 転居に伴う費用に対する支援
5. 現在居住している住宅・土地の売却・除去等に対する支援
6. 空き家・空き地に関する情報提供
7. 住み替え先の地域に関する情報提供 (子育て環境や介護・福祉施設の情報など)
8. 地域の公共交通 (移動支援) に関する情報提供 (運行情報や支援内容など)
9. どのような支援があっても住み替えない
10. その他 ()

Q17. それぞれの移動手段について、あなた自身が現在感じる重要性と、今後歳を重ねた先の将来に考える重要性をお答えください。(それぞれ1つに○)

設問項目	現在の重要度					将来の重要度				
	重要	やや重要	普通	重要でない	あまり重要でない	重要	やや重要	普通	重要でない	あまり重要でない
1. 自家用車による移動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 鉄道による移動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. バスによる移動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. タクシーによる移動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. 徒歩による移動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6. 自転車による移動	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

Q18. 昨今、大雨洪水や地震などの自然災害により全国的に被害が頻発しています。このような状況に対して、あなたの考えに最も近いものをお答えください。(1つに○)

1. 災害の危険性があるなら、安全なほかの地域に可能な限り引っ越しした方がよいと思う
2. 引っ越しは難しいため、自宅は見捨てることになっても避難を全力で行うべきだと思う
3. 引っ越しは難しいため、引っ越さなくても良いよう行政が対策を行う必要があると思う
4. 引っ越しは難しいため、災害に備えて地域で話し合い、事前に避難計画などを考えた方が良いと思う

Q19. 国では新型コロナを契機としたまちづくり（都市施策）の方向性として、まちなかでの広場や民間空地等の重要性を再認識し、いざというときに活用できる緑とオープンスペースの整備を推進しています。そこで、今後の富良野市の「まちなか」で広場や民間空地等を活用したウォーカブル^(※)な空間の整備を進めるうえで、あなたの考えに最も近いものをお答えください。（2つまで○）

※ウォーカブル：歩行空間を創出し、屋外で活動すること。また、屋外の活動を促進することで、健康と環境を維持することにつなげることを目指す考え。（第3次富良野市都市計画マスタープランより）

1. ウォーキングや体操など健康増進の場として活用
2. オープンカフェなどにぎわい創出の場としての活用
3. 交流の場となるイベント空間としての活用
4. リラックスできるベンチなど休憩スペースとしての活用
5. 木々の植栽やまちなかの景観形成としての活用
6. 災害時に防災機能を発揮する場としての活用
7. 子どもたちの遊び場としての活用
8. その他（ ）

(4) 自由意見

Q20. その他、富良野市のまちづくりについて、ご意見等ありましたら、ご記入下さい。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。
貴重なご意見として活用させていただきます。